

第6期第1回あま市まちづくり委員会会議録要旨

と き 令和4年8月8日（月）
午前9時00分～午前10時40分
ところ あま市市役所 本庁舎
2階 大ホール

1. 出席者等

委員	13名
事務局	7名
傍聴人	2名

2. 市長あいさつ

- ・本委員会は、あま市みんなでまちづくりパートナーシップ条例に基づき、市民と行政のパートナーシップによるまちづくりを推進するための調査・審議を目的に設置されている。
- ・第5期のまちづくり委員会では、市民活動団体をはじめとしたさまざまな主体と行政の協働を推進するため「協働のためのルールブック」を作成し、市民活動センター主催の講座などで活用している。
- ・第6期のあま市まちづくり委員会では、協働によるまちづくりのさらなる推進に向けて審議いただきたい。

3. 委員長及び副委員長の選出

あま市まちづくり委員会規則第5条の規定に基づき、第6期まちづくり委員会委員長には、小林優太委員が選出された。

副委員長は、委員長からの指名により佐藤亮治委員が選出された。

4. 議題

「第6期あま市まちづくり委員会の調査・審議内容について」

○事務局

- ・第5期まちづくり委員会から第6期まちづくり委員会への調査・審議内容についての提案がある。
- ・ルールブックの活用、周知、検証や改善
- ・学生など若い世代の参加促進
- ・協働に対する理解促進
- ・市民活動センターの在り方
- ・継続性のある具体的な地域課題に特化した施策の企画・立案
- ・参考として「交流と連携により、まちのにぎわいと活力の創出」郷土に対する誇りと愛着を持つ協働のまちづくりのさらなる進化（シビックプライド）

○委員長

- ・今期のテーマを何にするのか、意見をいただきたい。

○委員

- ・学生などの若い世代の参加促進とあるが、高校生と大学生ということか。

○事務局

- ・その認識である。

○委員

- ・市内在住の方のみか、市外から通学している人も対象か。

○事務局

- ・市内のみとするか、市外も含めるかについても、委員会で議論いただきたい。

○委員

- ・あま市以外の協働に係る会議に出ているが、後継者問題とお金の問題が必ず議題に上がる。
- ・幼少期からボランティアが身近であることを教えていく必要がある。
- ・小難しいことではなく、楽しいプラスのイメージをいろいろな方に与えることができれば、大人になってからも地域に関わろうと思えるのではないか。また、その土壌をまず作ることをテーマとしてあげた。

○委員長

- ・若者が参加できる土壌を作るためには何ができるのを具体的に出して提案していくということを学校や地域コミュニティでできるかもしれない。
- ・それぞれのテーマで興味や関心があって深められるものを選んでいけるといい。

○委員

- ・学生の話になったので、夏休み期間中の活動事例はあるのか。

○委員

- ・七宝地区の小中学校では、除草作業を実施する。
- ・反抗期で親子の会話がないう問題を解消するため、親子で一緒に除草作業に参加して、会話のきっかけにしよう。

○委員

- ・学校が始まって、学校へ出てこない生徒もいると聞いている。
- ・そういった人を地域で拾い上げて、指導していくことが社会に求められている。

○委員長

- ・多様な視点から、若い世代の参加促進を考えることが必要である。
- ・参加できる子と参加できない子、両方に目がいくことは大事なテーマである。

○委員

- ・事務局へ質問。
- ・資料4、市民活動・協働に関する若年層へのアプローチでは、出前講座や市民活動センター見学と記載があるが、これは予定なのか実施されたものなのか。
- ・また、「あまのわ」に関しては開催日が迫っているが、ボランティアの募集はどのくらい反応があるのか。

○事務局

- ・市民活動センターの見学については、2小学校の児童が市民活動団体の活動発表パ

ネル展を見学するためにセンターへ来館した。

- ・出前講座については、3小学校で実施した。
- ・市民活動祭は令和4年10月22日の土曜日に開催を予定している。
- ・ボランティアの参加については、毎年50名から100名程度のボランティアの参加がある。

○委員

- ・市民活動センターの在り方について、設置の提言書を作ったのが平成25年なので、この6期が終了する頃に、10年になる。見直す時期ではないか。

○事務局

- ・10年経ち、いろいろなことが進んでいく中で社会の状況も変化している。
- ・センターのあり方を見直すための意見をいただき、センターの運営に反映していくことは重要なことである。

○委員

- ・小学校の出前講座は企画政策課で実施していると聞いたが、3校のみか。

○事務局

- ・出前講座は、学校から依頼があつて実施する。依頼があつた3校で実施した。
- ・ガイドブックのyoung版、Jr版については、活用依頼をしている。

○委員

- ・学校関係の会議に参加しているので、活用の依頼や話ができる。

○事務局

- ・young版、Jr版の活用は、校長会で依頼している。
- ・他の活用方法があれば、相談したい。

○委員

- ・認知症カフェの関係のボランティアをしている。
- ・行政が話す内容は正しいと思うが、実践的な話をする機会があればと考える。

○委員長

- ・それぞれの関わり方があり、自分たちならこのように関わるといった意見は大切である。

○委員

- ・本委員会でテーマを決めているが、学校に対してお願いするのはおかしいのではないか。
- ・学校は忙しいと思うので、資料を出して学校のほうで十分判断をされると思う。
- ・学校に対するお願いや啓発は大事である。
- ・同時に、地域に対してまちづくり委員会の活動の様子を知らせる責務もある。
- ・機会を見つけて地域へ、例えばこのメンバーでも構わないが、」出向いて話ができるような体制があるとうれしい。

○委員

- ・市内には高校が2校ある。
- ・つなぐ市場という甚目寺駅ロータリーで実施する事業に、40名の高校生がボランティアで参加した。
- ・参加した学生が、自分たちの学校祭にキッチンカーを呼びたいと言い、自分たちで声をかけて了承を得た。
- ・まちづくりが学校に貢献できた一つの形である。
- ・9月に高校で、コミュニティ協議会としてイベントとまちづくりについて講演をする。
- ・学校側の都合もあるが、そういう事例やパターンもある。

○委員

- ・小学校・中学校の話が出ているので、現場を預かるものとして意見を言わせていただく。
- ・コロナの前に企画政策課の方に、何度も小学校に来ていただいた。
- ・甚目寺小学校は、10年以上前からESDとあって、持続可能なまちづくりをテーマに総合学習を実施している。
- ・学校によって、温度差があると思う。
- ・ここ1、2年はコロナ禍で出前授業をできない環境であったが少しずつ出前授業も再開し、今年も来ていただいた。
- ・そういう状況なので、3校だけということでは何か活動が鈍いんじゃないかと思われるが、そうでもない。
- ・企画政策課の方は、求めればいくらでも来ていただけると、2年前に実感した。
- ・コロナ禍前にボランティアの方にたくさん来ていただいて、それぞれの活動の説明を子どもたちが聞いたことがあった。
- ・あま市というのはすばらしい市だ、いい活動をしていると思った覚えがある。

○委員

- ・学校に赴任してきてから、最初がコロナで休校の状態。
- ・5月の半ばから分散登校が始まり、6月から全員登校となった。
- ・ボランティア活動については、このコロナの煽りを受けて実施はできなかった。
- ・高齢者の認知症講座のことを言われたが、認知症理解・発達障害児理解講座は、心の教育の一環でコロナ禍でも継続している。
- ・地域の方々が子どもたちに対して、熱心で協力的な市だと感じた。
- ・学校でできることとして、まずトイレのスリッパをそろえるとか、廊下のすれ違いのところで挨拶をするとか、そういったことがボランティアのスタートラインかなということをやっている。
- ・校内でちょっとした人のために、次の人のためにという気持ちで指導していこうと思っている。

○委員長

- ・学校に全部お願いする話ではなく、忙しい中でどうやったらやっていけるのかを一緒に考えるのが協働かなと思う。

○委員

- ・市民活動センターの在り方は、運営していただいているものをもっとこうしたらいい

いとか、そういうことをここで決めるということか。

○委員長

- ・どう提案するのがいいか、委員会で考えることだと思う。
- ・現状を聞き、委員会としてどう提案というか、何か意見とか提言ができるか。
- ・テーマを一つに絞るという話ではないと思うが、優先順位をつけなければいけない話なので、3回ずつ挙手でよいか。
- ・支持率の高いものから取り上げていく、軸にするテーマをどれにするかというところで、皆さんの意見を聞ければと思う。
- ・広い意味の繋がり、シビックプライドも大事だと個人的には思う。

○副委員長

- ・ルールブックについてという部分と、協働に対する理解の促進という部分は、ルールブックの活用という観点からいうと、一緒のことだと思う。

○委員長

- ・ルールブックと協働に対する理解促進を一緒にできるということで、このテーマは広く協働に対して理解の促進ということなのかな。

○委員

- ・市民活動センターの在り方について、新庁舎ができるが、センターはあのままあるのか、それとも移転するのか。

○事務局

- ・現時点で、新庁舎の中には入らない。今の場所から移転することはある。
- ・公共施設再配置計画の第Ⅰ期から第Ⅴ期の50年計画の中では、七宝産業会館は解体ということになっている。

○委員長

- ・協働に対する理解の促進は、ルールブックの活用についても含める。
- ・学生など若い世代の参加促進のところを一つ、市民活動センターの在り方を一つ、継続性のある具体的な地域課題に特化した施策の企画・立案で一つ、シビックプライドで一つということで、5つ。
- ・2年かけて全部できるかもしれない、順番だけ決めていきたい。
- ・順番に聞くので、挙手をお願いします。

○委員長

- ・ルールブックについて1と3で10票。
- ・若い世代の参加促進について6票。
- ・市民活動センターの在り方が5票。
- ・継続性のある具体的な施策の企画・立案が9票。
- ・シビックプライドが6票。
- ・結果に基づいて、次回以降どう進めていくかを、事務局と相談の上、提案させていただく。

○事務局

- ・次回は10月27日木曜日、午後3時から。
- ・場所は本庁舎2階の大ホールを予定している。